

あけましておめでとうございます  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

前回の通信から随分と時間が空いてしまいました。

年齢を重ねるごとにお教室以外での活動の責任も出て参りましたが、当然のことながらお教室が軸であることに変わりはなく、ぶれない気持ちでこれからもしっかり頑張ってお参ります。

とは言っても外の責任(神奈川県芸術舞踊協会)も舞踊界でのお仕事ですので、お教室の範囲にとどまらない様々な経験、勉強をさせて頂き有難いことです。協会運営、協会自主公演の制作、文化庁助成金での公演制作、コンペティションの実行委員会、研修会主催、署名活動など…この多くの事業に関わらせていただき、時間がいくらあっても足りない日々ですが、このひとつひとつが日々のお教室のお稽古や、舞台に確実に繋がっていることを実感しています。

さてコロナが明けてようやく気持ちにも広がりが出てきたかな…と感じております中…。

父方の従妹が恩田陸という作家をしており、彼女は昨年、バレエ小説を書きあげるなどの大のバレエ好きでもあります。日本のバレエ界でご活躍する著名人の方々への10年以上にも渡る取材を重ねて書き上げたそうです。

昨年、彼女との些細なやり取りから「森は生きている」をモチーフにした子供対象のバレエを作ってはどうか?という提案がありました。

これまでお衣裳のアトリエヨシノの吉野社長から長年にわたり「子供バレエを創って!!」と言われ続け、不思議の国のアリス、ピーターパンを創ってきました。両方の作品に出演している生徒さんもあることと思います。

これに続きピノキオを…と制作に取り掛かろうとした時、2011.3.11 が起こってしまい、そのままになってしまっています。ディズニーの印象が色濃くある3つの作品をどのように創ったらよいのかと考えると、既存のクラシック音楽からシーンにあったものを選曲し…物語の本質から外れないような軸の確立との理想をかかげて取り組んできました。私はいつも、決して新しいもの…これまで観たことがないようなものや、観た人が驚く様なものを創ろうとは思っておらず、誰の心の奥底にでもあるはずの、普段は忘れていた…大切なものに触れられるようなものを創れることを理想にしています。創作活動が専門ではないので、手法や技術などが未熟でもどかしさを感じていますが、創作に取り組むことは嘘のない自分と向き合える作業として細々と続けていかななくてはと密かに思っています。

という訳で現在の予定として、今年の発表会では久しぶりに「森は生きている」に挑戦してみようかと考えております。今後様々な理由から断念しなければならないことになるかもしれませんが、従妹との約束でもあるので前向きに考えていきたいと思っております。

その前にバッハコンサート。長く通ってくださっている生徒さんにはお伝えしていますが、バッハコンサートもまた私のライフワークです。幼いころから身体に染みこませるように聴いてきたバッハの曲は、いつの時でも聞いた瞬間、ある方向へと導いてくれます。1999年にvol.1を発表し、今回でvol.21となります。常に新しいものではなく、「よりバッハの曲でありますように」と念じながら取り組んできました。他の作曲家の曲で苦しんだ時には、バッハを聴くと答えを教えてくれる…これが私にとってのバッハです。こんなに続くとは思っていませんでしたが、毎回楽しんで一生懸命取り組んでくれる生徒さんに励まされながらここまでやってきました。とても有難く思っております。今回もまたバッハみみれな日々を送らせていただけることを楽しみにしています。

ご報告となりますが、バレエ教室と一緒にピアノ教室を主宰して参りました実姉がこの度、涙ぐましい婚活の末(笑)結婚する事に至りまして、鶴見でのピアノ教室を昨年11月いっぱいまでクローズさせて頂くことになりました。

これまでピアノ教室に通って頂きました生徒さんには心より感謝申し上げます。

同じ家に育った姉妹とは言いましても全く違う人間でありまして…どのご家庭でもそうだとは思いますが、一言には言い尽くせない様なことがございましたので、この度こうして姉を送り出すことが出来、ようやく私も両親に対して肩の荷が下りた気持ちであります。

私にとりましてはこの家で育ててもらった何よりの財産は「バレエ」と「バッハ」です。

私はこれを、桃太郎の昔話における「きびだんご」と称して自覚しております。おばあさんが持たせてくれた「きびだんご」を自分はどうするのか? 自分で食べても佳し。困っている人に分けても佳し。答えは自分が一番よくわかっているはず…答えを探しながらの旅はまだまだこれから続きます。

生徒の皆様とまた一歩ずつ進んでまいります。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。